

TYPE OF INDUSTRY



科学技術・大学

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(89)

2011年11月に一通のメールを受け取った。「VoiceTr a（ボイストラ）を使ってみたら日本語の音声認識性能が素晴らしいかった。翻訳しないモードを作っていただき

音声認識、耳の代わりに

先進的音声翻訳研究開発推進センター・統合システム開発室室長

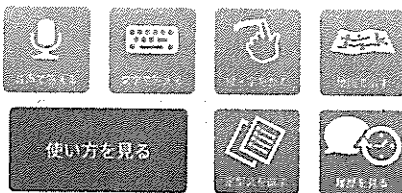
葦苜 豊

01年国際電気通信基礎技術研究所、09年NICTで音声翻訳システムの研究開発に従事。17年内閣府産学官連携功労者表彰総務大臣賞受賞。



私は耳が聞こえないので、これを使ってお話しします。ちょっとよろしいでしょうか。

どれかのボタンをタッチしてください。



聴覚障害者と健聴者のコミュニケーションに役立つ専用アプリ「こえとら」

「たい」。

私の所属部署では30年以上に渡って音声翻訳の研究をしており、その研究成果をVoiceTraという音声翻訳アプリとして一般に公開している。正直なところ翻訳しないモードはあり得ないので、先生。

が頭から離れず何度か読み返していた。メールの続きにはその研究成果をVoiceTraという音声翻訳アプリとして一般に公開している。正直なところ翻訳しないモードはあり得ないので、先生。

話せる人のための技術、音声合成は聞こえない人のための技術と聞こえない人の声の代わりに伝わるという想定で実験を行った。

その結果、手話ができると生徒たちの協力のおかげで「こえとら」という専用アプリを開発することができた。このアプリは聴覚障害者が持ち歩くことを想定して開発したが、意外な声で聞こえてきた。このアプリの利用者が身近に聴覚障害者がいる健聴者だった。

今この音声認識はキーボード入力の代わりに、駅や車内のアナウンスを正しく認識することは難しい。聴覚障害者は、耳の代わりになる技術を待ち望んでいる。微力ながらこの期待に応えたい。

（火曜日に掲載）